

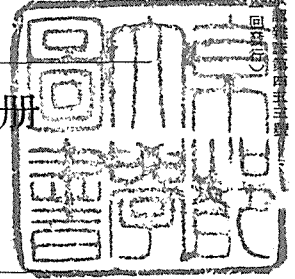
和二十四年六月一日運輸省特別扱郵便物第五三號
和三十一年七月十五日印刷（毎月一回發行）

哲學研究

第三十八卷 第十一册

第四百四十五號

昭和三十一年七月二十日發行



ホッブス哲學の再評價……………平下欣一

カントの先驗的統覺……………高橋昭二

ヘーゲルの二元性（完）……………橋本峰雄

新着外國雜誌所載論文一覽

京都大學文學部內
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行ふ
- (一) 毎月一回研究会を開く
- (二) 毎年公開講演會を開く
- (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年一、二二〇圓、又は半年六一〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

有賀鐵太郎	池田義祐	石田仁	井島勉	上野照夫	白井二尙	酒井修	重澤俊郎	島芳夫	關原太郎	高田三郎	武内義範	田中美太郎	長尾雅人	西谷啓治	野田又夫	松尾義海	三宅剛一	矢田部達郎
-------	------	-----	-----	------	------	-----	------	-----	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------

たる無制約者を理念として自己に課し、主體的形而上學を樹立せんとする。かくして我々はカントの先驗的統覺を「働」として、又「働の自覺」として規定し得るであらう。そしてかゝる先驗的統覺を自己の「最高点」とする先驗哲學は、かゝる先驗的統覺の自覺的自己展開——成程一つの自然の成立に關はる限りの自己展開と考へられるべきである。けれども理性が正にそこに於て自己を展開すべき場が單なる物理的自然であつた事に於て、カントの自覺の展開は、本來豊かな問題を藏しつゝ、形式的たるに止まつたのである。かくして我々はカントの先驗的統覺を、カント自身に依つて充分に展開されなかつた具體的自覺と結論しても許されるであらう。

(筆者 大阪大學文學部「哲學」助手)

前 號 目 次

神の無名性について……………右賀鐵太郎
 ——特にフィロンにおける——
 幸福と人間像(未完)……………岸畑 豊
 ——ベントムの幸福の概念について①——
 ヘーゲルの二元論……………橋本 幹雄
 新岩外因雜誌所載論文二篇

次 號 論 文 豫 告

古代支那に於ける觀念論の成立：重澤 俊郎
 幸福と人間の本質……………岸畑 豊
 ——ベントムの幸福の概念について②——
 カントに於ける法と道德……………土岐 邦夫
 の分離について

會 告

- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費（年一、二二〇圓又は半年六一〇圓）をお拂込下さい
「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」
- 一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい、一年分（又は半年分）會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年）毎に精算します
- 一、會員の轉居入退會等（編集事務以外は一切）の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい
- 一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛に御送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和三十一年七月十五日印刷
昭和三十一年七月二十日發行

編 集 人 京 都 哲 學 會

京 都 大 學 文 學 部 内

右 代 表 者

酒 井 修

發 行 人 八 坂 淺 太 郎

東 京 都 千 代 田 神 田 區 河 原 町 四

印 刷 人 伊 藤 久 春

京 都 市 田 中 西 浦 町 四

印 刷 所 弘 文 堂 印 刷 所

京 都 市 田 中 西 浦 町 四

發 行 所 株 式 會 社 弘 文 堂

東 京 都 千 代 田 神 田 區 河 原 町 四

註 文 規 定

- 一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい
- 一、本誌の御註文はすべて代金郵税共（一部、定價二〇圓・郵税八圓）前金にてお送り下さい
- 一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

社三十一
年七月二十五日
發行(第一行回)

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXVIII

July, 1956

No. 11

*A Revaluation of the Philosophy
of Hobbes* Kinichi Hirashita

*On Kant's Transcendental
Apperception* Shôji Takahashi

Duality in Hegel (II) Mineo Hashimoto

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

定
金
二
〇
圓

IBM 6427
